

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 19

2014年1月発行

コンサート 八尾の音楽家

旧家で JAZZ II

旧大和川を歩く
ぶらり長瀬川 Part 3

祝・最高賞！？
「なにわの伝統野菜栽培日記(19)」

コラム連載中
「落穂拾い - 今東光の薫風 - (十三)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

展示のご案内

【企画】NPO法人HCALE

平成25年度 冬季企画展

昔のくらしと道具

～箱・ハコ・はこ～

箱の中身は何だろう？



<関連企画>
ギャラリートーク(展示解説)
▶2月11日(祝・火) 14:00～

2014年
1月5日(日)～3月2日(日)

休館日＝火曜日(ただし2月11日(祝)は開館)。
1月15日(水)、2月12日(水)・13日(木)

開館時間＝午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
※最終日は午後4時まで(常設展は午後5時まで)

【観覧料】一般200円、高校・大学100円、中学生以下は無料

【交通案内】
○JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分
○近鉄大和線「八尾」駅から近鉄バス(久藤井寺駅前)行
JR八尾駅前バス(久藤井寺)下車、南東へ徒歩約6分
※当施設には駐車場はありません。



八尾市指定文化財
安中新田会所跡 旧植田家住宅
〒581-0084 大阪府八尾市植田町1-1-25 TEL/FAX 072-992-5311

 <http://kyu-undakejutsaku.jp/>

平成25年度 冬季企画展

「昔のくらしと道具～箱・ハコ・はこ～」

2014年1月5日(日)～3月2日(日)

※休館日はP15をご覧ください

次回 企画展「八尾の鉄道」(2014. 3/6～4/29)

旧国鉄を中心に、八尾の鉄道の歴史に関する資料や写真パネルを展示します。

Contents

- 4 コンサート 八尾の音楽家
旧家で JAZZ II
- 6 開館 5 周年記念展・後期
植田家を語るものたち～書画編～
- 7 講座
文化財の保存修復～紙資料の修復について～
- 8 まちあるきイベント
旧大和川を歩く～ぶらり長瀬川編 Part 3～
- 10 研究の一と：ファイル 7「源内焼」
- 11 旧家で愉しむ食事会
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記⑩
- 13 植松のまち・ひと 一第 13 回
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (十三)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



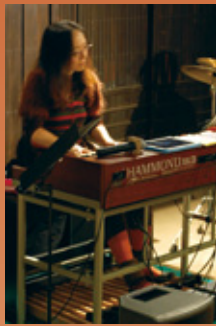
表紙写真

「旧家で JAZZ II」

2013 年 11 月 17 日（日）、古民家を舞台に JAZZ のリズムと音楽が鳴り響くコンサート「旧家で JAZZ II」が開催された。当日の様子は本誌 4・5 ページに掲載。（※写真は終演後のステージの風景）



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。
<http://kyu-uedakejutaku.jp>



井渕美保 (オルガン)



ロイヤン尾茂 (ギター)



きゅうか

旧家で

ジャズ

JAZZ II

コンサート
八尾の音楽家



橋田正和 (ドラムス)



美登恵津子 (ボーカル)



きゅうか
旧家で JAZZ II

ジャズ

晩秋の静かな夜、旧植田家住宅の主屋がジャズの華やかな音楽に包まれた。昨年の「旧家でJAZZ」に続き、今年も八尾市在住のドラム奏者・橋田正和さんを通じて、「コンサート八尾の音楽家 旧家でJAZZ II」が開催された。今回は「井渕美保オルガントリオ」の皆さんとゲストボーカルの美登恵津子さんに出演していただいた。

外は大雨。開場直前に突如降り始めた雨に入場者は急ぎ足で会場に向かった。そんな鬱そうとした気分を晴らすかのように、一曲目の「ハウ・ハイ・ザ・ムーン」が演奏された。

この曲は昨年也开始に演奏され、コンサートの幕開けにふさわしい軽快なリズムと爽やかなオルガンの音色が届けられた。

ここで今回使用されているオルガンについて井渕さんから解説があった。オルガンになじみのある



人にはおなじみのハモンドオルガンだが、一見するとエレクトーン（ヤマハ株式会社が製造発売する電子オルガン）に似ている。大きく違うのは、ハモンドオルガンにはひとつの音色しかないことだ。それゆえ演奏者のテクニクが要求され、その表現はドローパーと呼ばれる装置の使い方やスピーカーの切り替え、または足元のペダル（足鍵盤）によって大きく変化する。



足鍵盤とハモンドオルガン

く変化する。

さて、コンサートは二曲目の「オール・ザ・シングルス・ユー・アー」が、ロイヤンさんの甘いギターソロで始まった。そこへドラムとオルガンが徐々にとけ込んでいくと、曲は勢いを増していった。その勢いのまま、次の「オータム・イン・ニューヨーク」に入ると、雰囲気はがらりと変わり、秋らしい静けさと大人のムード漂う音楽が広がった。



多くのお客さんで盛り上がる会場

ここで、メンバー紹介が入り、次の三曲に参加するボーカルの美登さんが呼び込まれた。「チーク・トゥ・チーク（ほほを寄せ合つて）」、「ムーン・リバー」、「オーバー・ザ・レインボー」と、有名な曲の解説に「うん、うん」とうなづく会場。美登さんの登場でステージは一段と華やかになった。またジャズのスタンダードや映画のテーマ曲、そしてCMでもよく耳にする曲とあり、お客さんも大喜びで、大きな拍手も起こった。どの曲もボーカルが映えるものばかりで、旧家のコンサートとしては意外な空気を味わうことができた。

しっとりした曲のあとは、ド派手な「サニー」を演奏。鋭さもあり、最後の「バック・アット・ザ・チキン・シャック」に向けて準備は万端といった様子。あつという間にエンディングを迎えた。アンコールを演奏し終える頃には、降り出した外の雨はすっかりと上がっていた。思わず時間を忘れたひと時であった。

（旧植田家住宅 安藤亮）



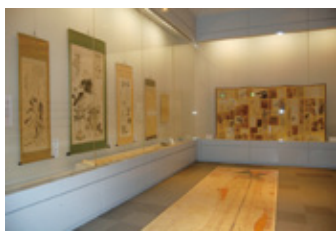
コンサートの終演後

開館五周年記念展示（後期）

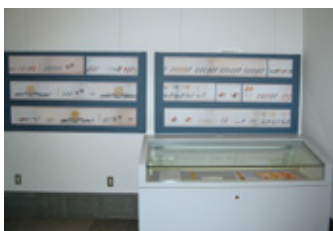
「植田家を語るものたち」書画編」

二〇一三年十一月二日（土）～十二月二十五日（水）までの期間、安中新田会所跡 旧植田家住宅の展示室では、開館五周年記念展・後期「植田家を語るものたち」書画編」が開催されました。前期展の「植田さん家の名品・家宝」工芸品編」（『植田家だより 十七号』で紹介）と同じく、後期では植田家に伝わる掛軸や屏風、画帖など書画類の優品・名品・珍品などを展示しました。中でも今回初登場の全長十六メートルの《日光東照宮祭礼図巻》や、全一四七点の作品がずらりと貼り交ぜられた六曲一双の屏風は見応えたっぷりでした。

《日光東照宮祭礼図巻》は、現在も日光市（栃木県）で毎年春と秋に行なわれている渡御祭とぎよさい「百物揃千人武者行列」の※の様子を描いたもので、人物の表情や動きが一人ずつ繊細かつコミカルに描き込まれています。また、実際の行列の通りに鎧武者など多種多数の子供がずらりと描かれ、その描写を見ているだけでも思わず笑みがこぼれてしまいます。展示室では、残念ながら展示ケースの都合で全体の約二割程度の部分しか開けられませんが、残りの部分はパネ



植田家にのこる書画類の名品たち



《祭礼図巻》の全図をパネルで展示



なが～い《日光東照宮祭礼図巻》



見応え充分！《貼交屏風》（左隻）



11月にはギャラリートークも開催



八尾の隠れた偉人・伴林光平の短冊

ルで展示しました。

さて、六曲一双の《貼交屏風》はりまぜびょうぶですが、こちらに残念ながら一双を同時に展示することができませんでした。しかし、それでも見応え充分の屏風は、それぞれ江戸中期から明治にかけて活躍した書画家などによるもので、右隻うせきでは七十八点、左隻させきでは六十九点もの作品を見ることが出来ます。とくに左隻の屏風には、大坂画壇に連なる画家の作品をはじめ、大塩平八郎の書や八尾に縁ゆかりのある人物・伴林光平の短冊もあり、それぞれのファンの方にも楽しんでもらえました。何よりも、こうした品々を、いつどのように蒐集したのかは分かりませんが、代々伝えてのこした植田家の気質や美の感覚にむしろ関心が高まります。

本展では他に、複数の書画家が集まって描いたとされる「寄合書き」よりあひきの掛軸と画帖や、中村不折ふせつ（夏目漱石『吾輩は猫である』の挿絵画家として有名）の掛軸、長崎出身の画家・片山楊谷かたやまようこくの《蘭亭曲水図》も展示されました。さらに旧植田家住宅の座敷でも、伴林光平関連の掛軸を飾るなど、まさに、植田家住宅の開館五周年を記念する豪華な展示となりました。次回は開館十周年にご期待ください。

（旧植田家住宅 学芸員 安藤亮）

文化財の保存修復

～紙資料の修復について～

2013年
11月4日(月)

講師:平田 正和 氏
(株式会社 工房レストア 代表取締役)



修復の方法や現状について解説する平田氏



修復後の掛軸



修復前の掛軸

なる前にまず正しい知識を。さらに、単に文化財だけでなく、それぞれの人が持つ「文化資料」を大切に守り、伝えていく心を本講座で学ぶことができました。今後またこうした資料の取り扱いに関する講座やワークショップなどを行なってみたいと思います。

(学芸員 安藤亮)

「『修理』と『修復』の違いは?」、「紙資料にはどんな種類があるの?」、「資料の取り扱いにはどうすればいいの?」などなど、あらゆる疑問を解決すべく、紙資料の修復等を専門に行なう「工房レストア」(大阪 市大正区)の平田正和氏に、紙資料の保存と修復についてお話をさせて頂きました。

本講座は、普段資料を扱う専門家だけでなく、できるだけ多くの人に資料の正しい知識を知ってもらいたいというのが狙いで、はじめに資料がなぜ傷むのかについてお話をされました。経年劣化や害虫による被害もありますが「一番の原因は人間による影響です」と平田氏。劣悪な環境で保管・

使用されていたり、適当な修理をしたもの、さらにはコロコロ(掃除用の粘着クリーナー)で掃除をしてはがれた紙資料もあったという実際の話をもとに、一般の資料の扱い方の現状を聞き、驚きでした。

修理は資料が使える状態になればいいのに対して、修復はできるだけ元の状態に戻すことだということを、実際に修復された資料を例に、種類別にスライドで丁寧に解説していただきました。とくに今回は、旧植田家住宅で依頼した掛軸の修復も例に挙げて頂き、資料は実際に展示(開館五周年記念展)で見ることができました。

修復は「最終手段」だといいます。そう



⑤金岡公園

公園の北東から南西がほぼ旧大和川の東岸から西岸にあたり、大和川の広さがよくわかります。野球場や大人向け(?)のめずらしい遊具などもあります。



⑥長瀬神社

旧大和川西岸の堤にあたる場所に大正元年(1912)に創建された神社です。明治22年に6つの村が合併し長瀬村が誕生、明治39年に8つの神社が合祀されました。参道は南、北、西に開かれ、両方の参道にも立派な鳥居があり、境内には多くの石造物が配置されています。東大阪市最古と思われる灯籠一基が本殿南の中庭にあり、境内には寛政5年(1793)の“珍しい”狛犬(獅子)もあります。



⑦吉松新田会所跡碑

現在小学校のある場所に、昭和51年まで吉松新田会所の建物などがありました。吉松新田(約16ha)の会所の建物には、長屋門、主屋、土蔵、茶屋のほか、生駒山を借景にした池と築山がありました。



⑧長瀬墓地

行基菩薩がつくったといわれる河内七墓(長瀬、岩田、額田、植松、恩智、垣内、神立)の一つです。長瀬墓地は、旧長瀬村全域と旧布施村のうち岸田堂、太平寺、三の瀬の共同墓地でしたが、今は市営墓地として利用されています。墓地内には鎌倉時代の阿弥陀如来座像があり、市の文化財に指定されています。



⑨波牟許曾(ハムコソ)神社

江戸時代は広い敷地をもった大社であったと考えられます。大正元年、長瀬神社に合祀されましたが、その後も当地で地元氏子により祀られ、大正3年に祭祀を存続することとなりました。



⑩西岸堤跡段差

旧大和川の西岸の段差がのこり、その段差沿いに道路があります。その道路から長瀬川をのぞむと旧大和川の天井川の様子がよくわかります。



⑪両岸の堤跡段差(写真左:西方向、右:東方向)

旧大和川の両岸の位置が確認できます。西岸は近くに見えますが、東岸は、はるか遠方に見えます。両岸の距離は、約750mあります。



⑫永和・荒川共同墓地

旧大和川の西側の堤跡。長瀬川から西方向に撮影。道の遠方に見えるのが墓地。



⑬延命寺

延命寺は、寛文2年(1662)に石清水八幡宮のそばにできたお堂が始まりとされます。大正13年よりこの地にあり、阿弥陀如来立像と地藏菩薩坐像は、大阪府の指定文化財(彫刻)になっています。

⑭帝国キネマ長瀬撮影場跡(写真左)と樟徳館(右同)

長瀬撮影場は、帝国キネマ演芸株式会社により昭和3年(1928)5月に建てられ、当初の敷地は5000坪、かまぼこ型のスタジオ2棟と二階建ての建物があり、『東洋のハリウッド』といわれるほど立派なものでした。昭和5年に上映された『何が彼女をそうさせたか』が大ヒット。昭和5年(1930)9月30日に焼失し、京都太秦に撮影場が移されました。樟徳館は帝国キネマ長瀬撮影場跡に、樟蔭学園の初代理事長・森平蔵氏の私邸として昭和14年に建てられました。もと材木商であった森氏は、銘木を使い書院造り系統の主屋のほか諸建物と洋式接客棟を造り、平成12年には国の登録文化財になっています。



⑮樟蔭学園・田辺聖子文学館

小説家 田辺聖子は、この学校の国文科卒業(1947年)で、2007年に自筆原稿や著書などを収蔵する文学館が開館しました。

まちあるきイベント 旧大和川を歩く

～ぶらり長瀬川編 Part 3～

宝永元年（1704）の大和川付け替えによって新田開発された旧川筋には、歴史ある史跡や名勝、名所がたくさん残されています。まちあるきでは、古いものから新しいものまで魅力あるスポットを発掘します。



「旧大和川を歩く～ぶらり長瀬川編～」は今回でPart3となりました。旧大和川（長瀬川）沿いを八尾市の端からこれまで数回に分けて北へ歩き、ついに東大阪までやってきました。

2013年11月30日（土）、朝9時に近鉄「久宝寺口」駅に集合、そこから近鉄「河内小阪」駅を目指します。当日の参加者は13名。最年少はなんと5才の女の子でした。今回は、三津村新田をはじめ金岡新田、吉松新田、菱屋西新田の4つの新田をまたぎ、これまでと同様に旧川筋の堤跡を見つけながら歩きました。途中、古い墓地や神社、すこし昔の名所から新しい公園などにも立ち寄り、15カ所のスポットをめぐることができました。今回はとくに各所の時代や景観などがバラエティに富み、とくに天井川（旧大和川）の堤の高さがわかる墓地や数多く残る神社などは、その地理や歴史または地域を知ることによってたくさんの驚きと発見がありました。

正午には目的地に到着し、その後二つの駅に分かれて解散しました。次回、まちあるきのコースは未定ですが、春の開催を予定しています。「ぶらりまちあるき」にぜひ一度ご参加ください。



①大阪中央環状線（府道2号）堺市堺区より池田市まで繋がる52kmの道路。昭和45年（1970）日本万国博覧会（大阪万博）にあわせて整備されました。



②佐堂墓地と佐堂生が塚（佐堂狐山）碑
佐堂墓地は、旧大和川の東岸堤辺りに位置し周辺より小高くなっています。かつて佐堂の杵築神社後方東側にあった佐堂生が塚（佐堂狐山）の碑が、この場所に移されています。



③西岸堤跡段差
金岡商店街の西端に旧大和川西岸の堤跡の段差が南北にみられます。



③西岸堤跡段差



④友井墓地
旧大和川の東岸堤の辺りに位置し、東側の道路と墓地との地面の高さ（段差）が2m位あり、当時の堤防の高さがよくわかります。

研究 のーと

Investigation
Note

ファイル7

げんないやき

「源内焼」



裏側



緑色が鮮やかな《三彩仙人虎図皿》(源内焼)

旧植田家住宅 学芸員

谷口 弘美

今回は旧植田家住宅の収蔵品の中から、緑色が鮮やかな《三彩仙人虎図皿》を紹介する。この皿は、讃岐国の志度（現香川県さぬき市）でつくられた「源内焼」と呼ばれるやきものである。

源内焼は、江戸時代中期に※本草学者・科学者・戯作者など多彩な活躍をし、エレキテル（摩擦起電器）を発明したことで知られる平賀源内の名前に由来し、宝暦五年（一七五五）、源内の指導によって出身地の讃岐国志度で生まれたとされる。源内焼の特徴は大きく分けて次の三つが挙げられる。

① 緑・茶・黄色などの釉薬（三彩）をかけ、低い温度で焼いた軟らかい陶器である。

② 精巧な型を用いて器の形や浮き彫りの文様を施している。

③ 文様のデザインに大陸地図や日本地図、または七賢人・唐子など中国的な題材を用いることが多い。

今回の《三彩仙人虎図皿》も、これら源内焼の特徴をふまえているといえる。この皿は直径二十五cmで、緑を基調とした鮮やかな色の釉薬がかけられ、輪花形をした口縁部には、渦巻きや唐草文様などが装飾されている。また中央には躍動感のある虎とそこにもたれたか

かる仙人、傍らには岩から生える実のついた植物が描かれている。これは中国の伝承に登場する仙人「董奉」の故事を題材にしていると思われる。董奉は多くの人びとの病を治し、治療代の代わりに杏の木を植えてもらった。すると数年で杏の林になり、これを虎に守らせたという。名医の代名詞として使われる「杏林」という言葉は、この故事にちなんでいる。

植田家がいつどのようにしてこの皿を入手したかについては不明であり、植田家に現存する源内焼もこの一点のみである。当時、源内焼は京都や大坂などに広く流通していたようだが、源内焼の作品自体が現存していることは少ないようだ。先述したように、源内焼は器の形や文様が型でつくられているため、植田家の《三彩仙人虎図皿》と同じような作品が、今もどこかにのこされている可能性があるかもしれない。

※本草学

古くは中国で薬や植物を研究する学問であったが、日本においては江戸時代に広く普及し、動物、鉱物、博物学的な学問へ発展した。



歴史、建物、料理、食器、、、 すべ たの 総てを愉しむ！

旧家で愉しむ食事会

11月28日（木）、旧植田家住宅の座敷では限定20名の「食事会」が行なわれました。この食事会は、旧植田家住宅の畑で栽培した「なにわの伝統野菜」を使ったお料理を、植田家に代々伝わる食器でいただくというイベントです。毎年開催しているこのイベントも、今年で五回目となりました。人気の企画ともあり、今回はなんと！申し込み開始10分で受付締め切りとなりました。

当日は真冬並みのとても寒い日となりました。はじめに、当施設学芸員による建物見学会と、展示室で開催中の5周年記念展示のギャラリートークが行なわれました。参加者の皆さんは、夜間の植田家住宅や展示品に興味津津の様子でした。

そして、おまじかねの食事会が始まりました。お料理は、毎年ご協力をいただいている、地元八尾でも評判のお店「創業庵ひろなお」さんにご用意頂きました。今回も植田家の畑で収穫された田辺大根や勝間南瓜をはじめ、ぶりやふぐといった旬の食材を使ったお料理も並べられ、お造りに焼き物、煮物など、ど

れもほんとうにおいしそうでした。

これらのお料理の盛り付けには、植田家に伝わる江戸・明治期の食器が使用されました。かつて安中新田会所の支配人を務め、様々な人たちがよく訪れた植田家には、日用や来客用のほか、冠婚葬祭などの諸行事で用いられた数物の食器が多くこのされていきます。今回はその中から、見た目が華やかな食器を用意しました。どれも手づくりで、文様も手描きで描かれているため、同じ文様の食器でも一つ一つに微妙な違いがあります。参加者の方がたは、おいしい料理を楽しんだ後、食器を手にとってじっくりと眺めたり、隣の人と見比べながら愉しんでいました。

参加者の方からは「昔を思い出した」、「とてもおいしいお料理だったし、雰囲気もよかった」、「次回もぜひ参加したい」などの声もたくさんあり、大変満足されている様子でした。

詳細は未定ですが、次年度も食事会の開催を予定しています。次回もみなさんに愉しんでいただける「お・も・て・な・し」ができるようにスタッフ一同、お待ちしております。

（旧植田家住宅 スタッフ）

なにわの伝統野菜 栽培日記

No.19

5度目の正直!

虫(特に蟬)が大嫌いな割りに、畑を担当しているスタッフの伊藤です。拙い文章で、この栽培日記を書かせていただき、早や五年が経ちました。そして冬の恒例「田辺大根フェスタ」への出陣も同じく五回目。

ジャジャジャジャー!!

この度、おかげさまで、ようやく念願叶い、昨年末の田辺大根フェスタで、欲しくて欲しくてたまらなかった最高賞「これぞ田辺大根de賞」を頂くことができました。神さま・仏さま・納豆さま、そして色々とご指導頂いた皆さま方、本当にありがとうございました。ございました。

今まで、サイズが大きすぎたり、また小さかったり、葉っぱが茂りすぎたり、形がブサイクだったり、なかなか思うように育てることができず、くやしい想いもしてきましたが、今回何とか納得のできるもの

を作ることができ、たいへんうれしく思っています。何だか、引退のご挨拶みたいになりましたが、断じてわたくし、辞める訳ではございません(笑)。「祝・最高賞」というわけで、今回は趣向を変えて、この五年間にわたる「これぞ田辺大根de賞までの道のり」を写真で振り返ってみたいと思います。

2010年

栽培日記
No. 7



でっかいde賞

2009年

栽培日記
No. 3



葉ぶりがいいde賞

2013年



✧これぞ田辺大根de賞✧

2012年

栽培日記
No. 15



驚異の納豆パワー!

栽培日記

でっかいde賞

2011年

栽培日記
No. 11



栽培日記

葉ぶりがいいde賞

植松のまち・ひと

第十三回

◇毎年恒例！おもちつき大会

あつという間に一年は過ぎ、今年も年末恒例の「おもちつき大会」が、十二月二十一日（土）、旧植田家住宅で催された。毎年たくさんの方が集まるこの行事だが、今年はまた昨年以上の賑わいをみせた。

今回は、前回と違って、小さなお子さん連れの親子の姿が多く見られた。そのためか、おもちをつくことよりも、昔ながらのその風景を見て楽しむ人が多かったという印象だった。もちろん、子どもと一緒におもちをつくお母さんや、子どもそっちのけでもちつきを楽しむお父さんの姿もあった。地域のコミュニティ（共同）の場とし

「おもちつきで、 コミュニティの絆を強固に」

て一役買っているこのイベントだが、こうした家族のコミュニケーション（交流）の場としても役立っているようだ。

地域のコミュニティといえば、例年お手伝いをしてくださっている地域の方々やボランティアの方々、また各地から足を運んでくださるお客さんなど、実に多くの人たちの支えによってこの行事は成り立っている。おもちつきのおもちのように、バラバラだったもち米が、じつくりと蒸され、たくさんの人たちの手によってひとつのものとなっていく、やがて強固なものとなる。そのように考えるとおもちつきから得られることはたくさんある。だが、やはり食べるおもちはかたいよりやわらかいに限る。

マンジークン

安富士 暁



親子で！



地域の
人たちと！



こどもたちと！

落穂拾い

― 今東光の董風 ― (十三)

文・伊東健

慶長遣欧使節出帆四百年記念事業として、二〇一三年十二月に上演されたオペラ「遠い帆」は、一九九〇(平成二)年に山田耕筰が生前、哲学者・阿部次郎に、支倉常長を題材にしたオペラ構想を記した手紙を送っていたという報道を端緒にして、仙台市が制作に着手したものだと言います。

この辺りの事情は、先にも紹介した山田耕筰と今東光との対談誌上で、明らかにしてくれます。

今 先生はドイツへいらした時、阿部次郎さんに会ったんですか。

山田 その頃、ベルリンに「文教会」という会があつて、ぼくも入ったんですよ。日に一ぺんくらい、みんな会う。面白いのはその時阿部さんに、「山田さんに、オペラのいい材料がありますよ」と云われたん



です。ちようどぼくはオペラを書いていた時分なので「なんです」と聞くと、『支倉』書けという。僕が二十三の時ですから、ちようど五十年前のことですね。その『支倉』をこんどあなたが書かれるんですってね。

今 先生と『支倉』やりたいというお話したのは、もう三十年くらい前ですね。ぼくの三十年ほど前からのお約束なんですね。私自身も、やっぱりキリスト教の学校にいただけに、非常に興味をもっています。

実は、二人は関西学院の先輩・後輩という間柄で、東光は在学時代より山田耕筰の名前を聞き及んでいて、グリーククラブに入部し、西洋音楽や讃美歌に深く親しんでいたといいます。

また、東光の生涯の友のひとりである画家の東郷青児の証言として、『東光金蘭帖』

には次のように記しています。

僕が絵描きになったのは山田耕筰さんのすすめに従ったんだ。実はそれまでは僕は音楽家になろうと思ってたんだよ。ところがドイツから帰った山田さんは、君は音楽の才能より画家に適していると言われたんだ。

東光は、東郷が描く絵を見て、画家をあきらめ、小説家を志し、三十数年を経て約束の作品「はげくら」を上梓したのでした。東光の「はげくら」はオペラには結実しませんでした。山田耕筰、今東光、東郷青児の青春時代の奇縁に思いを重ねながら、慶長遣欧使節四百年という歴史を振り返ると、人の世の不思議を感じます。



1959(昭和34)年
中央公論社発行

【2014年2月～4月】

旧植田家住宅のご案内

今後の展示・企画

※毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5名限定)」
// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催

展 示

2014年

◎1月5日(日)～3月2日(日)

企画展「昔のくらしと道具
～箱・ハコ・はこ～」

※2月11日(祝・火) ギャラリートーク

◎3月6日(木)～4月29日(祝・火)

企画展「八尾の鉄道」(仮)

展示、イベント等のお知らせは
ホームページもご覧ください
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

企 画

◎2月 9日(日) 連続講座2「ミルシルキクスル③」

◎3月 23日(日) 講座「今東光～『悪名』のアサくない話～」
// 八尾再発見!映像に見る八尾「(内容未定)」

◎4月 未定

※4月以降の予定につきましては、お問い合わせをいただくか
ホームページ(随時更新)等でご確認ください。

(詳しくはお問い合わせください)

休館日カレンダー

■ = 休館日

2 February

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3 March

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

4 April

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

●開館時間:午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休 館 日:火曜日・祝日の翌日・年末年始
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入 館 料:一般200円(団体20人以上で100円)
高校・大学生100円(団体50円)
※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者
および介助者は無料

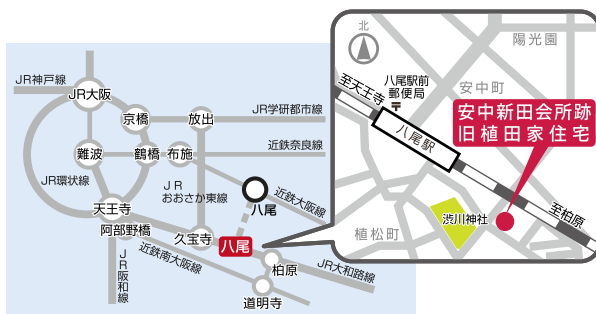
●お問い合わせ

〒581-0084 八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX:072-992-5311

E-mail:info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇近鉄大阪線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行

JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約6分



これからの社会に必要な「しくみ」と 「人の居場所」をつくる活動を行っています。

私たちは「社会が豊かになることによって、私たちが豊かになれる」という信念のもと、「新しいキャリア観をつくる」「中小企業のソーシャル化」「生物多様性」「地域を元気にする」をキーワードに、これからの社会に必要な「しくみ」と「人の居場所」をつくる活動を行っています。本業を通じた社会貢献をお考えの企業さま、持続可能な社会をつくるために何かしたいとお考えの行政・地域団体など各種事業体のみなさま、お気軽にお問い合わせください。



事例 : no.005

第6回八尾バル テーマ食材／八尾若ごぼう+α

八尾のおいしい農産物とよりすぐりのお店を結んだ「地産地食」飲み歩き食べ歩きイベントです。チケット1枚で1ドリンクと八尾の旬の食材を使った一品を味わえるおトク感とおいしさ満載の1日。八尾バルwebサイトにて、チケットの予約販売受付中です。

NEWS 次回の八尾バルは3月1日、近鉄八尾駅、河内山本駅周辺約30店舗にて実施！ □ <http://yaobar.net>



事例 : no.006

ハッピーアースデイ大阪 2014

環境のことを考え、日々の暮らしの中で幸せを感じることをテーマとした環境ムーブメント「アースデイ」。雑貨や食品等を販売するお店が約100店舗集まるマーケットや、体験型ワークショップ、環境に関する展示、学生団体の活動報告など、さまざまなコンテンツが会場を盛り上げます。

NEWS 次回のハッピーアースデイ大阪は3月22日、23日の2日間、久宝寺緑地 修景広場にて開催！ □ www.happy-earthday-osaka.jp

リレー
コラム

私たちと、八尾の街。

学生たちと一緒に「地球や人に対して何ができるか」を考えられる場所にしていきたい



1970年に「地球環境について考える日」として、アメリカで始まったアースデイ。それを原点に、大阪で活動をしている相田洋介さんにハッピーアースデイ大阪のことを聞いてみました。
「原点はアメリカでの活動にあるけど、ハッピーアースデイ大阪はそれにプラスして、学生を中心に地域の人とも関わりながら、地球や人に対して何をすればよい方向にむかうかを知ることができ、また考えることができる場ということを大切にしています。
そういう意味で、この久宝寺緑地という開かれた公園で行っている意味は大きいですね。ふらっと公園に遊びに来たときに、さまざまな活動をしている人たちと出会う、触れることができる。それが、自分たちの身の回りの生活の中で何ができるかを考えるきっかけになればうれしいですね。
ハッピーアースデイ大阪も、プレ開催から数えて2014年春で8回目を迎えます。これから時代が進むと地球や人に対する考え方や方向性も変わってくると思うけど、関わる人たちと知り合い、考えながら、経験していく。それが活かされ次の世代へ引き継がれていく。そんな拠点になるために、5年、10年と続けていくべき活動なんだろうね。」
子ども好きとおっしゃっていた相田さん。ハッピーアースデイ大阪の活動を通じて、次世代に何を残してあげられるかを考えているような姿が印象的でした。



取材協力：ハッピーアースデイ大阪 実行委員 相田 洋介さん ハッピーアースデイ大阪： www.happy-earthday-osaka.jp

いっしょにつくる、八尾想いプロジェクト。 私たちとあなたも始めてみませんか？

このプロジェクトは、私どもの本業を通した「社会への還元」を行う活動として実施します。
このプロジェクトに共感いただき、ご発注いただいたお仕事で得る、売上金の一部を「八尾を想うプロジェクト」へ支援金として還元する取組みです。

『地域を元気にする活動に参加したい』

もしそのようなことをお考えであれば、私たちとまずは始めてみませんか？

プロジェクトの詳細はこちらから <http://www.seeds-c.co.jp/campaign/yaoomoi/>

お問合せ

CSR室（直通） **06-4801-8200**

平日 11:00-17:00
(土日祝を除く)

NEWS

ファミリーロード（八尾市商業協同組合）様より、ハッピーアースデイ大阪、NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会の両団体へ支援いただきました。
ファミリーロードHP：<http://www.family-r.com/>

PROJECT 001

ハッピーアースデイ大阪2014春(3月予定)でのリユース食器レンタル費へ「八尾想いプロジェクト」で発生した売上金から3%を支援！

PROJECT 002

ニッポンバラタナゴ保護池の保全活動(保護池の清掃活動他)費へ「八尾想いプロジェクト」で発生した売上金から3%を支援！